

令和8年3月13日

保護者の皆様へ

愛西市立佐屋小学校長
嶋藤 真由美

学校評価 保護者アンケート結果について（お知らせ）

弥生の候、保護者の皆様には、日々、学校教育にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

ご多用のところ、保護者アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。多岐にわたり、たくさんのご意見をいただきました。次年度からの佐屋小学校の指針としていきたいと思ひます。

1 保護者アンケート結果（3年間の推移）

4段階評価

教育計画・指導		評価		
番号	評価項目	5年度	6年度	7年度
1	学校は、読み・書き・計算などの基礎学力定着のため、きめ細かい指導を行っている。	3.13	3.05	3.11
2	学校は、一人一人を大切にした授業を行っている。	3.08	2.97	3.07
3	学校は、楽しく分かりやすい授業を行っている。	3.13	3.08	3.19
4	学校は、ICT機器（コンピュータ、タブレット、インターネット、プロジェクター、実物投影機など）の使用によって、学習効果を高めている。	3.12	3.07	3.06
5	学校は、子どものよさや努力したことなどを認めている。	3.26	3.26	3.32
6	学校は、「生きる力を育む」というねらいをもって指導している。	2.96	2.98	3.01
7	学校は、外国語・外国語活動や情報教育を、ねらいをもって効果的に行っている。	2.74	2.71	2.86
8	学校は、活動内容の充実した行事を計画し、しっかりと運営している。	3.14	2.98	3.05
学校経営		評価		
番号	評価項目	5年度	6年度	7年度
9	学校は、児童の不適切な言動に対し、きちんと指導している。	3.02	2.97	3.00
10	学校は、困ったことや悩みなどを理解し、誠実に対応している。	3.13	3.08	3.11
11	学校は、いじめの早期発見・再発防止に力を入れている。	2.99	2.94	3.01
12	学校は、子どもたちが安全に安心して過ごすことができるようにしている。	3.20	3.16	3.14
13	学校の施設・設備はきちんと整っている。	2.80	2.69	2.66
14	学校は、教育活動の様子や情報を保護者にきちんと伝えている。	3.06	3.01	3.05
15	学校は、「開かれた学校」に向けて努力し、保護者・地域の願いに応えている。	3.00	2.91	2.99
子どもたちの育ち		評価		
番号	評価項目	5年度	6年度	7年度
16	子どもたちは、いろいろなことに意欲的に取り組んでいる。	3.15	3.08	3.12
17	子どもたちは、楽しく学校に通っている。	3.34	3.24	3.29
18	子どもたちは、きちんと挨拶をしている。	2.92	2.85	2.85
19	子どもたちは、交通ルールをきちんと守っている。	2.94	2.84	2.87
20	子どもたちは、丁寧な言葉遣いをしている。	2.54	2.44	2.46
合計		3.03	2.96	3.01

回答数 363 回答率 83.3%（昨年度回答数 363 回答率 83.3%）

- ➡ 本年度の評価は、昨年度と比べ16項目で高い評価となり3項目で低い評価となりました。
- ➡ 「教育計画・指導」は、項目5が最も高い評価でした。これは全項目の中でも一番よい数値です。日頃から担任をはじめ、すべての教職員で子どもたちのよさを認めることを意識して教育活動を行っ

ておりますので、この結果については大変うれしく思います。一方で項目7が最も低い評価でした。しかし、昨年度からの上昇率は最も高くなっています。外国語の授業は専科教員とALTが協力して、楽しく展開することができていますので、次年度さらに上昇するであろうと期待しています。

- ➡ 「学校経営」は、項目12が最も高い評価でした。子どもたちにとって安心・安全な環境を整えることは、学校教育の土台となる部分ですので、大切にしていきたいと考えています。しかし、年々低下していることも気になります。気を引き締めて取り組んでいかなければならないと思います。一方で項目13が最も低い評価でした。施設の老朽化は年々進んでいるため、下がり続けるのは仕方のないことかもしれません。しかし現在、「佐屋小学校準備委員会」が開催され、数年後の校舎の改築及び建替に向けて話し合いは確実に進められています。新校舎になれば、改善される部分も多いと思われませんが、それまでは現校舎を工夫しながら使用する以外に方法がないというのが現状です。しかし、児童の安全に関わる部分については市教委と相談しながら優先的に対処していきます。
- ➡ 「子どもたちの育ち」は、項目17が最も高い評価でした。これは学校としては最もうれしい結果です。今後も子どもたちが笑顔で登校、満足で下校できるように努め、子どもたちのウェルビーイングを大切にしたい安心・安全な学校づくりに取り組んでいきます。一方で項目20が最も低い評価でした。昨今、言葉については関心が高まっており、暴言や誹謗中傷については、学校も厳しく対処していかなければならないと考えております。しかし、過度な指導は子どもたちの自由な表現を奪ってしまうことにもつながりかねません。学校ではその辺りに気を付けながら要所要所で指導していきますので、ご家庭でも折に触れて、丁寧な言葉遣いができるようにご協力をお願いいたします。

2 保護者の皆様の主な声

- 給食の時間が短いと感じます。一食一食が成長につながる時期ですので、みんなで楽しく食べられる給食の時間になるとうれしく思います。
 - ➡ 多くの学校では給食の時間を準備・片付け・歯磨き指導も含めて50分間で行っています（中学校は45分間で行っている学校もあります）。食べることは個人差が大きく、好き嫌いなく何でも食べることができる児童もいれば、少食の児童、偏食の児童、食物アレルギーのある児童など、児童によって様々な実態が見られます。食べる時間についても、咀嚼の能力や集中力によってかなりのばらつきが出ます。実際に同じ量を食べさせた場合、10分足らずで食べ終わってしまう児童もいれば、30分以上かけても食べ切ることができない児童もいます。一人一人のペースに合わせて会食する時間を取りたいのはやまやまですが、給食センターへ食器等を返却するための配送の関係で、時間を区切らざるを得ないのが現状です。また、集団生活において、ある程度の速さで決められた時間内で食べ切ることも大切なことだと考えます。

しかし、年度当初の1年生においては全てのことにおいて時間がかかるため、4時間目の授業から給食の準備に取り掛かるなどの配慮を行っています。今後も過度に急がせず、安全で楽しい給食の時間をできる限り確保していきたいと思っております。
- 通学団での素行について、もっと厳しく指導してほしい。特に下校において、団長や副団長が率先して話したい子の所へ行ってしまう、他の団員、ましてや一年生が先頭、または1番後ろで放置されていることがある。まるで他の学年のお手本になっていない。上級生なので他の学年からは注意もしづらいし、保護者から指摘するのも近所の子という事で角が立つ。他にも通学の通り道のお宅やお店のものを壊したり、ごみを捨てていたりする子もいるという。保護者の見守りだけでは徹底できないことなので学校でも厳しく指導、見守りしてほしい。
 - ➡ 2029年度までに教員の月当たりの残業時間を平均30時間ほどに抑えることを目標としている文部科学省は、全国の教育委員会に対し教員の働き方改革を促す指針を通知しました。文部科学省は、教員が本来の仕事に集中できるように、学校の業務の線引きを見直す方針を示しました。学校の仕事を「業務の3分類」として、「学校以外が担うべき業務」「教師以外が積極的に参画すべき業務」「教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務」の3つに分け、「登下校時の通学路における見守り」は「学校以外が担うべき業務」に分類されました。

学校としても、登下校時のトラブルについては頭を抱えています。朝から教室を空にして登下校に関わるトラブルの対応をすることはよくあります。それらの問題を防ぐために、全ての団に教職員が付き添うこともできません。通学団というシステム自体が時代に合わなくなってきたおり、一人通学団の児童や送り迎えの児童も増加しています。だからといって、急に通学団を無くすこともできません。登下校中の子どもが被害に遭う交通事故や犯罪を減らすためには、地域全体で、登下校中の子どもたちの見守り活動を行うことが効果的です。学校もトラブルが減る下校方法について検討をしているところです。また、地域や保護者の方からなる「佐屋小スクールガード」の設立も考えています。その際には、ぜひご協力ください。

3 今後の取組について

保護者アンケートを通してたくさんのご意見をいただきありがとうございました。自由記述については、すべてのご意見にお答えするのが本意ではございますが、紙面の関係上、主なものに限らせていただきました。すべての意見について検討し、フィードバックは行っておりますので、気になる点につきましては、いつでもお問い合わせください。また、「意見を述べる機会が学校評価しかない」とのご意見もありましたが、いつでも受け付けておりますので、お気付きの点等がございましたら、随時ご遠慮なくお知らせください。

今後とも、子どもたちのために、使命感をもって、精一杯努力して参ります。ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。